

第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅱ
児 童 5年4組 男17名 女18名 計35名
指 導 者 宮 伸 幸

1 単元(小単元)名 「工業生産を支える人々」 2 世界とつながる日本の工業

2 単元について

(1) 教材について

本小単元は、学習指導要領第5学年の内容(3)「ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」を受けて設定されている。

我が国は、工業生産がさかんな国の一つである。主な特徴としては、原材料を加工し形や性質を変えて生活や産業に役立つ製品をつくり出している「加工貿易」が主流であった。工業製品としては、機械工業で生産された物が最も多い。その中でも自動車は生産額、輸出額においてもとても大きな割合を占めており我が国の重要な工業製品のひとつとなっている。自動車の生産には欠かせない原料の鉄鉱石は、そのほとんどが外国からの輸入に依存している。国内で製造された自動車は、世界の様々な国や地域にも輸出されている。近年では、外国で製造された部品や完成品が日本に輸入されるケースも増加してきている。かつては、貿易黒字国であった我が国は、輸出の伸び悩みや化石燃料の輸入量増加などにより貿易赤字国になるなど貿易を取り巻く状況の変化は激しい。そのため、学習を進めるにあたっては教科書の資料をベースにしながらも最新の情報も適宜示しながら指導していくことが望ましいと考える。

(2) 児童について

児童は、これまでの学習において、多様な自然条件が人々の暮らしに影響を与えていることを学んできた。このことはどの産業においても同様であり、位置する環境や自然条件によって、その土地に合ったものを生産していること、厳しい自然環境を乗り越えようとしてきた人々の工夫や努力があることについても学んできている。

問題解決型の学習を進めてきたことによって、子ども達は、少しずつではあるが学習の流れを理解してきている。「見通し」の場面では、学習課題に対する答えの見通し、解決方法の見通しを考えてきた。慣れないうちは、なかなか発言に結びつけられない様子であったが、これまでの学習経験を元にして考えることを通して、既習内容の大切さを感じられるようになってきている。「振り返り」では、授業毎のまとめと共に自身の気付きや変容を加えながら学習のまとめを試みている。

(3) 指導にあたって

これまで学習してきた「自動車」をきっかけにして、「生産」「貿易」をキーワードにしながらこれまでの「外国との関わり」について考えを深めていけるようにしていきたい。そのために、「生産」「貿易」を取り巻く現状や課題を明らかにしながら、これからの貿易と海外生産のあり方について考えていけるようにしていきたい。その際には、「社会の発展・維持のために」という方向性を明確にしながら学習のまとめをしていきたい。「振り返り」では、まとめと気づきを記述する指導を継続していく。

3 小単元の目標

日本の自動車が世界各地に輸出されていることに気づき、工業生産を通した外国とのつながりについて、興味をもって調べようとしている。【社会的事象への関心・意欲・態度】

工業生産における世界各国との結びつきについて調べる学習課題を考え、表現している。また、日本の貿易の特色について調べたことをもとに、日本の工業生産と貿易との関わりについて考え、表現している。

【社会的な思考・判断・表現】

外国における自動車生産の様子について、グラフや地図などの資料から、必要な情報を読み取っている。また、日本の工業生産を支える貿易の様子について、必要な情報を読み取り、ノートや教科書にまとめている。

【観察・資料活用の技能】

日本の主な輸出入の品目や貿易相手先について知り、貿易や海外生産を通した世界のさまざまな国々とのつながりが、工業生産を支えていることを理解している。【社会的事象についての知識・理解】

4 指導計画 (工業生産を支える人々：5時間扱い 本時2/5)

時間	学習活動
1	・日本の自動車の輸出の様子をさまざまな資料から読み取り、わかったことを話し合い、これから調べていく学習問題を立てる。
1	・日本の自動車の海外生産が増えていることを資料から読み取り、その理由を考え、話し合う。
1	・日本の輸出入の品目や相手先の国々について資料から読み取り、日本の貿易の特色についてわかったことを話し合う。
1	・原材料の輸入や工業製品の輸出、港別の貿易額などについてグラフや写真から読み取り、日本の貿易の特色を捉え、日本の工業生産と貿易との関わりについて考える。
1	・貿易と海外生産の現状や課題をさまざまな資料から読み取り、これからの貿易・海外生産のあり方について考えをまとめる。

5 本時の指導について

(1) 目標

日本の自動車の輸出台数や海外生産台数の変化，世界に広がる日本の自動車工場について調べ，日本の自動車生産と世界の国々との結びつきについて考えることができる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
思考・判断 ・表現	海外生産が増えてきた理由について，輸出入のバランス，輸送費用の2点に触れながら説明している。	海外生産をすることの良い点を確認する。

(3) 指導の構想

本時の指導に当たって，これまで学習してきた「自動車」から，その生産方法が国内から海外へと変化していることに気付かせていくと共に，なぜ「海外生産」が増加しているのかについても「良い点」という視点を与えながら「海外生産」という事象が起こる必然性についても考えさせていきたい。「見通す」として，「導入」の学習場面1では，資料から本時の学習課題につながる読み取りをさせていきたい。「展開」の学習場面4では，課題に対する答えや解決方法の見通しを考えさせていきたい。また，「振り返る」として学習場面7では，「海外生産」の増加理由に触れると共に，本時の学習を通しての感想を加える形で学習のまとめをさせ，その交流によって個々の学びをより深めていきたい。学習場面8では，次時に扱う資料を提示し，本時と次時とのつながりを意識させると共に，今後の学習の「見通し」をもたせていきたい。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ● 評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入 5分	1. 資料1「日本の自動車の生産台数と輸出台数の変化」から気付いたことを発表し合う。 2. 資料2「世界に広がる日本の自動車工場と，現地での生産台数」から気付いたこと発表し合う。 3. 本時の学習課題を把握する。 なぜ，自動車の海外生産がふえたのだろうか。	個 全	☆ 資料1・2の資料を読み取り，本時の学習課題についての見通しをもたせる。 ○ 資料1から，自動車の生産台数と輸出台数の変化に注目させ，海外生産台数が増加していることに気付かせる。 ○ 資料2から，世界中の国々で日本の自動車が生産されていることに気付かせる。 ○ 「海外生産」の意味を分かりやすく説明した上で課題につなげる。
展開 30分	4. 学習課題についての見通しをもつ。 (1) 海外生産の良い点を予想する。 (2) 必要と思われる資料を確認する。 5. 自動車の海外生産がふえた理由について調べる。 ・ 海外生産が増加している根拠を調べ，ノートに書く。 6. 自動車の海外生産がふえた理由について分かったことを交流する。	個 全	☆ 課題解決の見通しをもたせる。 ○ 要点をしぼって箇条書きさせる。 ○ 課題解決に向けて必要と思われる資料を考えさせる。 ○ 教科書や資料を見ながら，課題解決に繋がる部分に線を引かせるようにする。 ○ 分かった事柄と海外生産の増加との関連を考えさせる。 ● 【思考・判断・表現】 海外生産が増えてきた理由について，輸出入のバランス，輸送費用の2点に触れながら説明している。(記述) ☆ 本時の課題と関連する教科書や資料集のページを確認させる。
終末 10分	7. 本時のまとめと振り返りをする。 日本の自動車の海外生産が増えた理由は，外国からの輸出が増えすぎないように求められたことや，費用が少なくすむからである。 今日の学習で，海外生産をすることによって，現地の材料や部品が使われることで現地の産業が発展することがあることが分かった。	個 全	☆ 「海外生産」を用い，それが増加した理由に触れさせながら，本時で学習したこと，感想も交えて文章でまとめさせる。 ○ まとめたことを交流させ，自分のとらえを深めることができるようにする。 ☆ 次時に扱う資料を児童に提示し，意欲を高める。
	8. 次時の学習内容の見通しをもつ。	全	